

## 第5回委員会の主な検討内容

- 市民科で発達段階や学習経験に応じて保護者や地域の方に提言や報告する学習は意味がある。
- 市民性を高める意味で中学1年生まででいいのか。継続的な学びが必要では。
- 各学年でどこまで市民性を高めるといった指標が必要。
- 教科横断的な学習は、総合的な学習の時間が中核となるとよいのではないか。
- 総合的な学習の時間は各校独自の計画で行っており、その中でどのように市民性を高める教育を取り入れていくか。
- 市民科として「自立・協働・社会参画」など目指す根幹（資質・能力）が決まっていれば、学校ごとに色々なルートがあってもよいのではないか。
- 今ある学習に市民科のエッセンスをどう加えるかが重要になってくるのではないか。
- 教科横断的な学習を進めていくのなら評価を含めた意図的・計画的な単元構成をしていかななくては、市民性を高めるという目的がぼやけてしまう。
- 委員会でいくつかのモデルパターンを示していけば、教員は自分なりに改変して計画をつくりやすいのではないか。